



インターンシップの重要性を確認した農業・農協教育研究会

# JA山形中央会

## 就農体験を後押し

### 農高関係者と連携強化を確認 教育研究会

JA山形中央会と高校などの農業教育関係者は5日、山形市で農業・農協教育研究会を開いた。就農やJAグループへの就職を目指す高校生のインターンシップ（就業体験）を中心に意見を交換し、連携の強化を確認した。

研究会は、高校での農 意見を交換するため、毎 業教育の在り方について一年開いており、JA山形 中央会その他、県高校教育 研究会農業部会長の佐藤 陸浩・置賜農業高校校長 ら、農業高校などの教諭 や県教委などから15人が 出席した。 JA山形中央会の後藤 雅喜参事は「インターン

たと報告。05年度からの 取り組みを通じ、目標を 持って学習に励むように なるなどの成果を収めて いるとした。

との課題も出された。

JA側は今年度、サク ランポの収穫などで山形 大学農学部などの学生受 け入れを支援したことがな どを紹介。インターンシ ップの促進に向け、13

8の法人・組織が加盟す る県地域営農法人協議会 や地域・担い手サポート センターの情報網の活用 などを呼び掛けた。

シップは、高校生がJA を身近に感じ、協同組合 や農業現場への理解を深 める有意義な機会であ り、これからも積極的に 支援していきたい」と述 べ、一層の促進と充実に 向け、意見を求めた。 県高校教育課の担当者 は、2016年度は農業 関係で26人の高校生が10 日〜2週間の中・長期イ ンターンシップに参加し